

表題：第 76 回 DSC 勉強会	
日時： 2013/11/12（火）10:30～12:00	場所： 株式会社三菱総合研究所 4F 会議室 CR-DE
<p><b>1. 議題</b></p> <p><b>1) 部会報告</b></p> <p><b>①システム部会</b></p> <p>9月18日部会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沖電気様より発表</li> <li>・ コンシューマー向けのデジタルデバイスのヒューマンインターフェイス勉強会</li> </ul> <p>10月16日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヒューマンインターフェイスについて</li> <li>・ レコメンドエンジンについて</li> <li>・ 公共情報顧問図のシステム連携サイネージに関する課題について</li> </ul> <p>次回11月20日に部会開催予定</p> <p><b>②指標部会</b></p> <p><b>③プロダクション部会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度テーマ HTML5 でのサイネージとして部会を開催予定</li> </ul> <p><b>②国際標準戦略部会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今月は部会開催なし</li> <li>・ ITU (SG16) 会合 (10/28～) <ul style="list-style-type: none"> <li>① 災害時の運用に関わる要求条件の追加提案</li> <li>② 6章概要部分の文章修正提案</li> <li>③ プレイスケジュールメタデータの修正提案</li> <li>④ の追加事項</li> </ul> </li> </ul> <p><b>③ユーザズ部会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月25日部会</li> </ul> <p>国際標準部会発表 江口常任理事プレゼンテーション</p> <p>次回：11月22日に部会開催予定</p>	

## ⑤ マーケティング・ラボ部会

### ・活動報告

- －定例研究会の月例化
- －インタビューポイントの定義
- －ロケーションハンティング
- －Player' インタビュー
- －経営に関する学術関係者の参画
  
- －撤退事例調査
- －研究レポートの執筆

10月19日京都にて定例部会

- グランフロント大阪・ロケーションの調査
- インタビュー
- －オックスプランニング様
- －メディアコンテンツファクトリー様
- －グランフロント大阪様

### ・インタビューポイント

- －成功定義
- －成功要因
- －収支内訳

## 2) ゲストプレゼンテーション

### ① ゲストプレゼンテーション1

「災害時サイネージ活用に向けた取り組み

～レジリエントなプラットフォームとウェブ実装によるサイネージ～」

日本電信電話株式会社 サービスエボリューション研究所

主幹研究員 井原 雅行 氏

東日本大震災では、通信断のためターミナル駅のサイネージ前に人が滞留しました。サイネージやスマートフォンがWi-Fiで連携し、災害時に滞留なく、必要な情報を簡単に獲得するための技術をご紹介しますとともに、実証実験の実施状況をご報告します。

### ・東日本大震災

通信会社としてNTTになにができるのか？

- 3.11 に何を持って言ったか？  
携帯、スマートフォンは 78.5%を持って逃げた
  
- 通信会社は災害時でも携帯端末向けに、  
商法流通環境を維持すべき
  
- スクリーンデバイスの普及  
災害向け IT 技術も、普及するスマートフォン、タブレット、デジタルサイネージを  
対象に開発することが重要
  
- 背景
  - 災害端末の可能性
  - スマートフォンタブレットの普及  
HTML5 対応ウェブブラウザの搭載
  - デジタルサイネージの普及
  
- 研究プロジェクト概要
  
- 本研究の解くべき課題
  - 端末接続性
  - 端末操作性
  - わかりやすい画面表現
  
- 研究のアプローチ
  - 問題解決型
  -
  
- 年間目的とスケジュール
  
- 東日本大震災に関する事前調査
  
- 問題点の抽出
  
- レジデント情報流通  
課題：変化する状況に応じて柔軟に対応可能な情報流通プラットフォームが必要  
解決：レジデント情報流通（コア端末による自立分散環境）

- コア端末割当方法
- コア端末の維持（自立分散）
- 巡回者端末を利用した情報伝達
- インターネット復旧時のアップロード

- ・ サイネージ前の滞留問題

課題：必要な情報を得たら、速やかに避難場所に誘導することが重要

解決策：有機的トリミング。簡単な操作で必要な情報のみスクラップ

- サイネージ/ユーザー端末間のコンテンツ同期
- 囲み操作によるスクラップ

- ・ 実証実験（11/1 報道発表済）

目的：東に本題震災で実際に滞留が発生したサイネージ前で提案技術の提案を行う。

場所：新宿駅西口（デジタルサイネージ「TIS」）

期間：2013/11/1～12

- ・ サイネージの災害時活用におけるポイント

- Wi-Fi と連携することで、インターネット不通時でもユーザー端末に情報を提供可能
- すべてをウェブアプリとして実装することで、インストール不要

《質問》

Q. レジデント情報流通のコア端末について、プロトコルの標準化はいつ？

A. ユーザーズ部会にてお話しする内容だが、

ITUT の災害関連の SG の発表にて、勉強会を発足予定。標準化に向けて活動中。

② ゲストプレゼンテーション 2

「ビッグデータから見たサイネージ」

日本電信電話株式会社 研究企画部門

チーフプロデューサー 松浦 由美子 氏

昨今話題となっているビッグデータ。

ビッグデータによりサイネージがどのように変わるのか、

現状の活用事例と、サービスにおける留意点などをご紹介します。

- ・ ビックデータ

ー大量、多様、高速 → 価値

・ビックデータで何が変わるか？

収集 → 分析 → 活用

ー統計処理に十分な情報量

ー即時に反応させる顧客接点

・活用先

ー企業向け

ー販売促進、ブランド価値向上

今後は顧客サービスの向上

広告プロモーション高加測定

・活用

ーマーケティング

ー効果的な配信、効果的測定

ー保守・運用効率化

ー設備設計

・マーケティング（阪急阪神グループ）

020 マーケティングによりトライアル

スマホアプリに会員登録

通常の8割の効果

ー情報を贈るタイミング（顧客の位置）

ークラスタわけ

・マーケティング（ローソン）

PONTAーポイントカードーアプリ連携ー店舗にてクーポン発行

ユーザーに興味を持って動いてもらう

・マーケティング（グランフロント）

ペルソナ（クラスタわけ）

・携帯電話連携サイネージ

・技術

深く分析、すばやく対応が可能  
ーソーシャルメディアの自動分類  
ーオンライン向けリアルタイム推薦

・ビッグデータと留意点

ーバリューチェーン  
  収集 ユーザーの受容性  
  分析 課題の明確化  
  活用 関係を見る、利用目的  
ー分析のトレードオフ  
  大量データでの精度向上⇔特徴的な部分の抽出  
  詳細な属性分析による効果⇔データ量  
ーデータの連携  
オープンデータとの連携

**3) 事務局より報告**

日時：2013年12月10日(火) 10:30-12:00 勉強会  
会場：慶應義塾大学三田キャンパス 北館大会議室

以上